

中国リスク回避

ジーエルテクノ ベトナム新工場

ジーエルテクノホールディングス（HD）はベトナムで半導体の製造装置に使う石英ガラス製品の工場を建設し、中国から米国の顧客向けに生産を移管する。総投資額は約50億円で、2027年1月からの製造開始を目指す。トランプ米政権発足以降、米中貿易摩擦が激化し、米系の主要顧客などが中国産品への警戒感を強めている。サプライチェーン供給網を再構築し、高まる地政学リスクを抑える。

で始動する見込み。生産能力はフル稼働時で年間30億円以上の売り上げに相当するといわれる。25年3月期の半導体事業の売上高は213億円だった。アジア

拠点向けに供給するほか、今後半導体投資の活発化が見込まれているインドなどへの重要な輸出基地と位置付ける。豊富な労働力と比較的低価な人件費がベトナム進出の主な決め手となった。

既存の中国工場（浙江省杭州市）は中国市場や非米系顧客向けの生産拠点として機能を維持する。将来は重産品を中国とベトナムで、高付加価値品は日本国内で手がける生産体制に移行していく。

米顧客向け石英ガラス



100%子会社のテクノクオーツ（東京都中野区）がベトナム・ハナム省に半導体製造装置の治具などに用いる石英ガラス製品の工場を新設する。首都ハノイから50キロ程度の工業団地で土地を取得し、穴開けや研削、研磨などの機械加工を行う。

海外の工場は中国に続いて2カ国目となる。従業員約100人。ジーエルテクノがベトナムに建設する石英ガラス製品工場の完成予想図